

**授業概要**

犯罪や非行に関する心理学はみなさんの想像以上に幅広い領域を持っています。犯罪や非行というと、加害者の問題性に目が向きがちですが、実際には、環境的要因、社会的要因も含め、様々な要因が複雑に影響し合っています。

そのため、この授業では、公認心理師科目として必要な加害者の心理に関する内容や犯罪被害者支援を中心としつつ、社会学的犯罪理論や犯罪捜査における心理学の活用についても説明します。

**授業計画**

|        |                        |
|--------|------------------------|
| 第 1 回  | 司法・犯罪領域の心理学の概要         |
| 第 2 回  | 刑事司法制度の概要（成人・少年）と家事事件  |
| 第 3 回  | 犯罪・非行の社会学的理論 緊張理論・統制理論 |
| 第 4 回  | 犯罪・非行の心理学的理論 機能理論      |
| 第 5 回  | 家庭と犯罪・非行の関係            |
| 第 6 回  | 反社会的パーソナリティ障害と素行症      |
| 第 7 回  | 依存・嗜癖① 薬物・アルコール        |
| 第 8 回  | 依存・嗜癖② 関係依存            |
| 第 9 回  | 認知行動療法① 概要 /小テスト       |
| 第 10 回 | 認知行動療法② リラプス・プリベンション   |
| 第 11 回 | 非行臨床におけるカウンセリング        |
| 第 12 回 | 犯罪捜査の心理学① ポリグラフ検査      |
| 第 13 回 | 犯罪捜査の心理学② プロファイリング     |
| 第 14 回 | 犯罪被害者の心理               |
| 第 15 回 | 犯罪被害者に対する支援            |
| 第 16 回 | 筆記試験                   |

**到達目標**

- 1 犯罪、非行、犯罪被害者及び家事事件についての基本的な知識を習得する。
- 2 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解する。

**履修上の注意**

- 1 公認心理師試験の受験資格を得るために必要な科目です。
- 2 疑問点があれば積極的に質問してください。
- 3 真剣に受講している学生の迷惑となる行為は慎んでください。

**予習復習**

- 1 復習に力を入れてください。特に授業において理解が不十分だと感じた事項は、参考書などで調べてください。
- 2 報道されている事件や社会問題について、授業の内容とどのような関連があるかを考えることを望みます。

**評価方法**

試験（期末）60%、小テスト（1 回）20%、コメントペーパーへの記載内容を含む受講態度 20%の割合で評価します。

**テキスト**

テキストは特に指定しません。資料は必要に応じて配布します。

参考図書：『公認心理師の基礎と実践 19 司法・犯罪心理学』 岡本吉生（編） 遠見書房  
ISBN:4866160691

『犯罪心理学事典』日本犯罪心理学会（編） 丸善出版 ISBN:4621089552